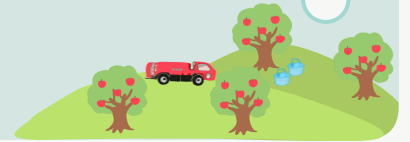


りんご「ふじ」に対する摘花剤 「サニデイ」の特徴と使い方



既存の摘花剤は2回散布する必要があり、特に石灰硫黄合剤は散布機の汚れや腐食など使いづらい面があります。今回、散布回数省力化が可能で、取り扱いも容易な新規摘花剤「サニデイ」の効果を検討したところ、1回散布で実用性の高い摘花効果が確認されたので、紹介します。

1 特徴と使い方

石灰硫黄合剤及びエコーキーは、物理的にめしべの柱頭を損傷させ受精を阻害するため、頂芽花及びえき芽花の満開日に2回散布する必要があります。一方、サニデイは植物ホルモンであるオーキシンの作用により受精を阻害させるため、1回散布で頂芽花及びえき芽花の両方に対し摘花効果が得られ、散布労力の軽減となります。また、価格は石灰硫黄合剤より高価ですが、エコーキーより安価です。

品種	使用目的	使用時期	希釈倍数	使用回数	成分総使用回数	10a当たり散布量	備考
ふじ	摘花	頂芽中心花満開 1～2日後	2,000倍	1回	2回以内	350L	展着剤不要

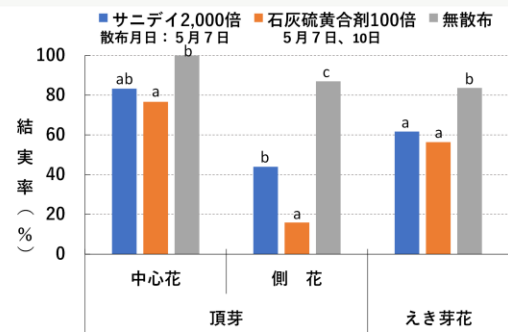
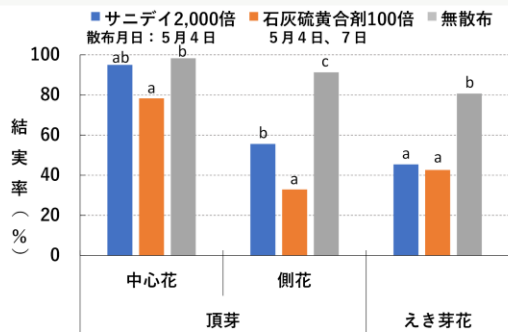


図1 サニデイの「ふじ」に対する摘花効果 (左：平成27年、右：平成30年 青森りんご研)
(注) アルファベット：Tukey-Kramerの多重比較法により異符号間に5%水準で有意差あり

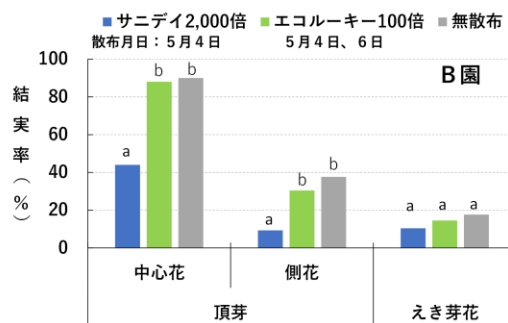
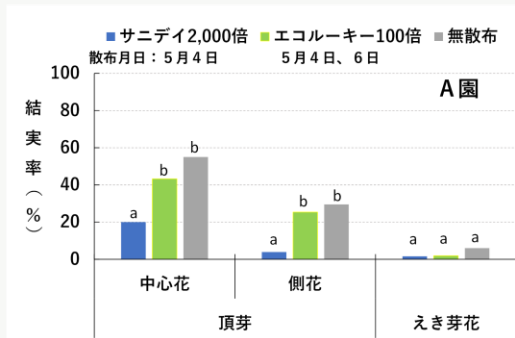


図2 現地圃場におけるサニデイの「ふじ」に対する摘花効果 (令和6年 青森りんご研)
(注) アルファベット：図1の脚注に準じる

2 使用上の留意点

- 中心花の受粉が不十分な場合、結実不良もしくは未結実となるため、人工受粉を確実に行ってから、本剤を使用してください。
- 散布後に葉がしおれる症状（エピナスティ：右の写真）を示しますが、1週間程度で回復します。
- 本剤の効果が確認されている品種は「ふじ」のみです。



エピナスティの症状